

カタクチイワシ卵稚仔出現状況 (2011. 6- 2)

香川県水産試験場 藤原 宗弘
TEL: 087-843-6511

調査方法

調査日: 6月15日 8:50~11:20

調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳

調査定点: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点

【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値
2009.6.18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1	0.3
2010.6.16	1	3	2	40	264	0	0	644	52	7	1	0	0	0	92.2	310.0
2011.6.15	2	29	27	6	10	56	21	115	1	1	4	1	0	-	24.7	21.0

【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

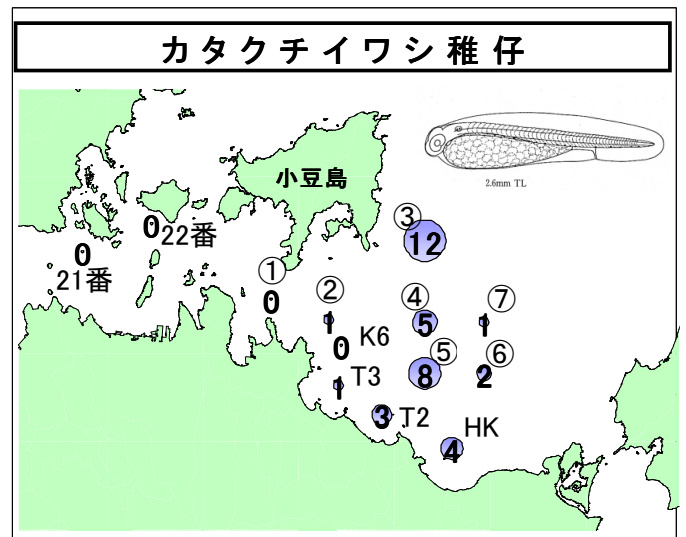
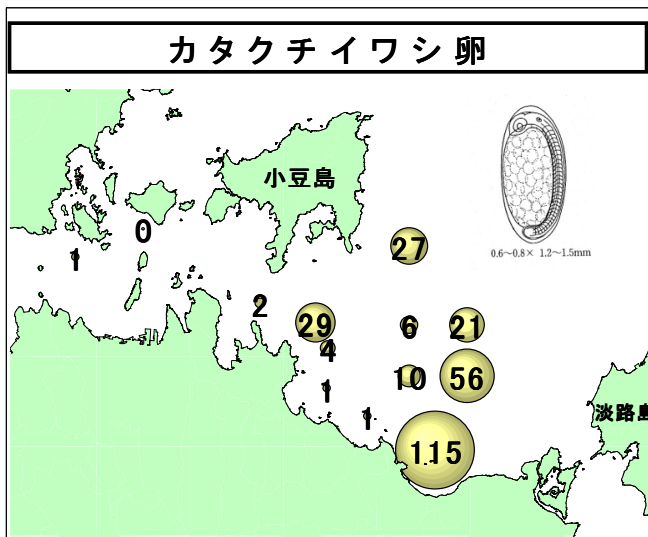
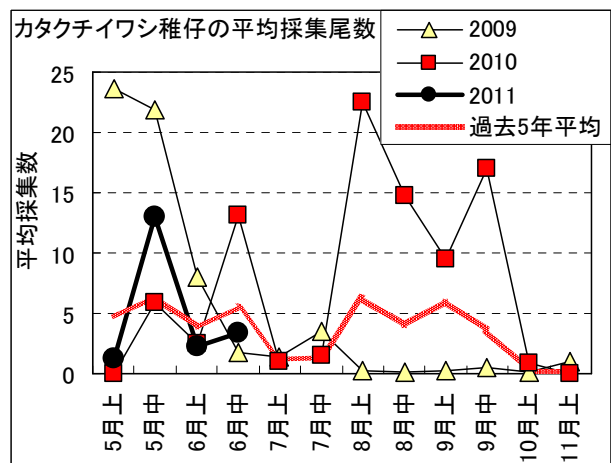
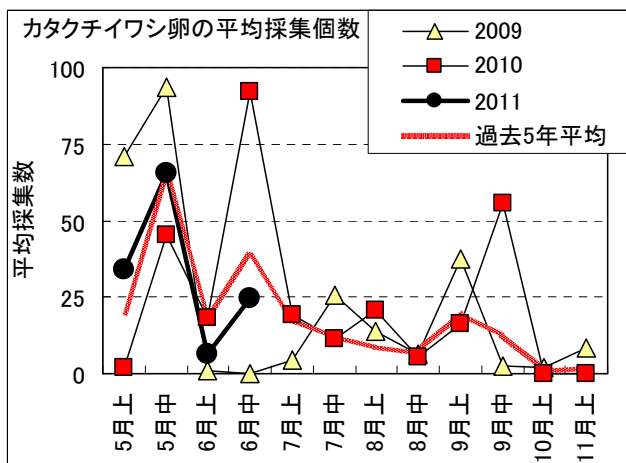
年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK	T2	T3	K6	21	22	NT	11点平均値	13点平均値
2009.6.18	0	0	2	3	0	5	9	0	0	0	0	0	0	5	1.7	1.7
2010.6.16	0	13	21	19	30	0	1	34	14	4	8	0	0	2	13.1	84.0
2011.6.15	0	1	12	5	8	2	1	4	3	1	0	0	0	-	3.4	2.8

* 表中の「-」は未測定を表す。

* 11点平均値: 播磨灘11定点の平均値を表す(備讃瀬戸を除く)。

* 13点平均値: 播磨灘11定点+備讃瀬戸2定点の平均値を表す。

* グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を現す。



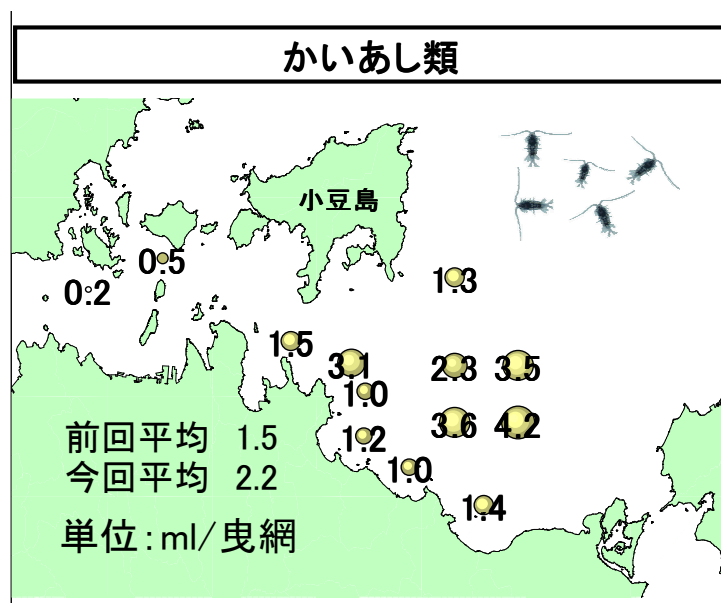
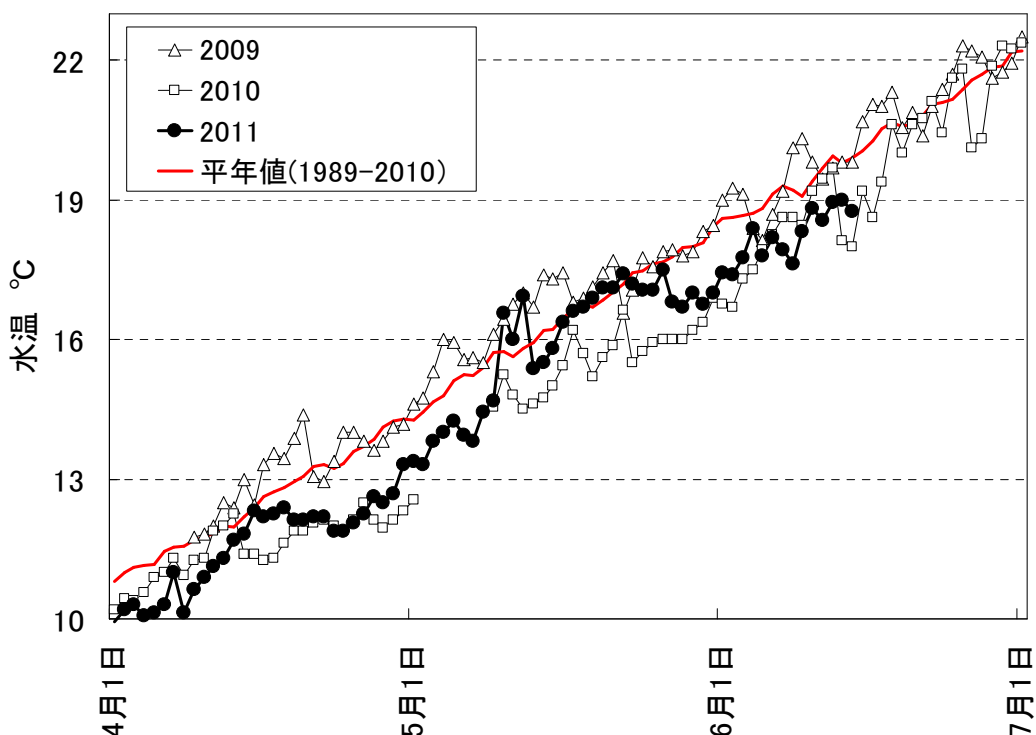
播磨灘11定点における卵の平均出現数は24個となり、昨年同時期を下回った。引田の沖合い方向の定点(HK、⑥)での出現が多かった。

一方、稚仔の出現は約3尾となり、昨年同時期を下回った。稚仔の出現は沿岸域で少なく、沖合で出現が多かった。

引田沖に設置した水温ブイ(午前9時)によると、水温は、5月中旬以降、平年値より低めに推移しており、昨年度と同程度で推移している。

ノクチルカ(夜光虫)が全調査点で優占しており、引田沖では一部着色域もみられた。餌料生物として重要なかいあし類は、沖合でやや多い傾向であり、11点の平均は前回の1.5倍程度に増加した。近隣府県の漁模様もよくなく、今のところかなり低調で推移している。

【参考】



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。

<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>